

平成30年度 第1回香南市産業振興計画推進分野別部会 報告

- 1 農業部会 1～2ページ
- 2 林業部会 3～4ページ
- 3 水産業部会 5～6ページ
- 4 商業部会 7～8ページ
- 5 工業部会 9～10ページ
- 6 観光部会 11～12ページ
- 7 サイクリング専門委員会 13～16ページ

平成 30 年度 香南市産業振興計画 農業部会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	○長崎 篤史	香南市認定農業者連絡協議会	出
2	◎竹内 淳	JA 土佐香美園芸部	出
3	石丸 典男	JA 土佐香美果樹部	出
4	百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	出
5	近藤 亨	JA 土佐香美営農経営指導課	出
6	中村 和彦	高知県農業共済組合香美支所	出
7	吉本 良太	高知県中央東農業振興センター農業改良普及課	出
8	山本 茂夫	香南市農業公社	出
9	齊藤 弓子 (山崎 義道氏 の代理出席)	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	村山 敦	農林課	出
2	猪原 一幸	農林課	出
3	小松 大洋	農林課	出
4	伊野 広高	農林課	出
5	山本 直史	農林課	出
6	近森 紳也	商工水産課	出

1. 平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

農業部会の目標の骨子である「新規就農者数12名」の目標に対し、7人でありC判定となっている。就農相談は目標件数以上あったが、相談時は県外在住であったり、将来的に農業をしようと考えている方、家庭菜園程度の考え方をお持ちの方なども多く、就農するまでには至らないケースが多くあった。今後も就農に向けたイベントに関係機関と参加し、周知をしていくよう努める。

【主な意見】

経営の向上への対応

・園芸用ハウスは災害が出たときどのような対応をしているのか。

→県、農済、JA、市が台風の翌日に調査を行う。その中で要望のあるものに対して支援を行っている。

施設本体の被災については終了しているが、付帯設備や撤去費用については被害に遭った箇所の領収書をつけるというルールなので、数件終わっていないところがある。

・災害復旧支援は、農家負担率が少ないというのは本当か？

→通常の災害復旧支援事業は県が2/5、市が1/5であるが、昨年の台風21号の被害については、県2/5、市が1/2の補助としている。

2. 平成 30 年度の方向性について

各戦略の柱の話し合いを今後も継続して農林部会で続けていく。

移住等の対応は農業部会以外の他部会にも関わることなので、情報交換の場を作っていく等の取組が大切である。

農業部会も年に2回と言うことではなく、協議することがあれば集まるようにしていきたい。

【主な意見】

- ① 物部川統合堰整備事業は何年前からやっているのか。管理道を直したいが、この事業があるため進めることができない。事故が起こるのではないかと不安である。スケジュールを早く出して欲しい。
→事業実施主体は土地改良連合で、平成 26 年度から 29 年度にかけて場所を変えて機能診断を行ってきた。30 年度に補助申請を出し、31 年度から事業の実施となる。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 林業部会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	○公文 敬介 (西村 忠浩氏の 代理出席)	中央東林業事務所 振興課	出
2	◎野島 常稔	香美森林組合	出
3	清藤 好弘	香美森林組合(旧夜須町)	出
4	別役 瑞久	香美森林組合(旧香我美町)	出
5	恒石 健一	林道愛護員(旧夜須町)	出
6	小松 光廣	林道愛護員(旧香我美町)	欠
7	久保 肇	林業者	欠
8	山崎 義道	地域支援企画員(総括)	出

	氏名	所属	出欠
1	村山 敦	農林課	出
2	小松 大洋	農林課	出
3	猪原 一幸	農林課	出
4	平井 彰洋	農林課	出
5	徳久 歩未	農林課	出
6	児玉 亮太	農林課	出
7	小林 辰徳	商工水産課	出

1. 平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

平成 29 年度の取組実績について確認を行い、森林境界明確化が目標値150ha に対して、実績値は 0ha であったため評価は C とした。

この取組は地権者の立会が必要となるが、地権者が不明だったり、接触が難しい現状等もあり、関係機関との協議の結果、平成 29 年度内の事業採択が難しいと判断したため 0ha となった。

【主な意見】

① 森林の境界明確化について

- ・所有者と市で協力して境界明確化をスムーズに実施できる対応をして欲しい。
- ・境界明確化の最終目標は森林整備であるため、資源の多いところを早めに行い、その資源を活かした取組を行うべきである。

2. 平成 30 年度の方向性について

森林境界明確化を実施するため香美森林組合等各関係機関と調整を図り、昨年度未実施であった取組の実現化に向けて進んでいく。

【主な意見】

① 山の持ち主の把握について

- ・山の持ち主(特に若者)が自分の山がどこに有るのかを把握するために、例えば税務収納課と協力して、固定資産税、相続税の課税対象者に山の所在を知らせる等の仕組みが必要である。
(通知に折り込みを入れるなど)
- ・事情があり、相続ができてない山林もある。法律面からの改善が必要であり、それにより、森林の荒廃を防ぎ、境界の明確化も実施しやすくなるはずである。
- ・山の管理を市町村が管理できる制度が支持されているが、個人の所有権が絡むため、取り扱いにくい問題である。
- ・GPS、航空写真を活用して、山の所在を地図上で把握できるシステムを活用することが必要である。

② 木質バイオマス発電について

- ・山の資源を農業のエネルギーとして活用したい。(農業と林業を結びつける取組の推進)
- ・ペレットの材質によって火力が違う問題がある。また、農協が提供したペレットの灰は農協が処理するが、個人で買ったペレットの灰は処理できない等、処理の差による使い勝手の課題がある。
- ・海外の燃料ではなく、地元の資源を有効活用したいという思いがある。
- ・導入当時は重油よりペレットの方が価格は安かったが、一時期より重油価格も下がり始めており、ペレットの価格とほぼ同じであることから、使い勝手がよく、火力の安定性もある重油が主体になっている。しかし、重油価格が上昇傾向となれば、再度ペレットの導入の流れになることが見込まれる。
- ・バイオマス設備を導入するのは簡単だが、ペレットを安定供給することに関して、まだまだ問題がある。

③ 間伐の問題について

- ・大規模間伐をやりすぎても地滑りに繋がる等、災害が起こるケースがあり問題である。

④ 管轄の問題について

- ・市内外に跨がり山を所有している人もいるため、「管轄が違う」と断るのではなく、市町村間の横の連携を強化して対応して欲しい。また、林道に関しても、同様に横の連携を強化し、香南市以外の道の状態を改善するように伝えて欲しい。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 水産業部会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎山下 太造	高知県漁業協同組合赤岡支所長	出
2	○仙頭 美香	高知県漁業協同組合手結支所長	出
3	本田 和仁	赤岡パッチ船主会会長	出
4	北村 政志	吉川パッチ船主会代表者	出
5	浜口 信義	手結地区漁業者	欠
6	中山 勝道	住吉地区漁業者	出
7	野村 操	ジャコ加工業者	出
8	加地 正人	シイラ加工業者	欠
9	飯田 新	高知県水産振興部中央漁業指導所長	出
10	齋藤 弓子	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出
4	澤田 卓	商工水産課	出
5	川西 貴祥	商工水産課	出

1. 平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

平成 29 年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる沿岸漁業総生産量 1,200 トンに対して実績値が 839 トンとなったことから、全体の評価を B と判定した。

目標を達成できなかった主な要因としては、平成 29 年度香南市内水揚量(赤岡・手結・吉川3港合計)の結果から、赤岡 316 トン・吉川 186 トン(前年比 300%)・手結 337 トン(前年比 64%)であり、シイラの回遊が少なく手結への水揚げが少なかったことが一つの要因として考えられる。

また、実績のなかった新規漁業就業者確保については、現状の香南市内の漁業形態では単独での就業は厳しい状況である。

【主な意見】

① 新規漁業就業者の確保

- ・市内主要漁業の形態では新規漁業就業者(独立型)の確保は難しい。
- ・漁業経営体数は数年で半減するだろう。

② 漁業者の所得向上

- ・沿岸漁業総生産量については目標値に達していない。ただシラス漁については浜値が上がり、漁業者の所得向上に繋がっている。そのため生産量とともに生産額もわかるように記載する必要がある。今後も引き続き維持するためには、豊漁がどれだけ所得向上に繋がったか等のデータ分析も必要である。

- ・漁業用の設備投資についても、後継者がいない中、多額の投資をできないのが現状である。

2. 平成 30 年度の方向性について

代表的な数値目標である沿岸漁業総生産量については、生産量とともに生産額もわかるように記載し、トン数のみでの評価でなく、所得面からも評価する。

新規漁業就業者の確保については、企業に雇用される新規漁業就業者(雇用型)の支援も考えていく必要がある。

シラスの学校給食納入について、今後は加工業者へ意向調査を実施し、実現に向けて踏み出す。

【主な意見】

①新規漁業就業者の確保

- ・企業に雇用される新規漁業就業者(雇用型)の支援が必要ではないか。
6次産業化を目指す必要がある。
- ・漁業人材の確保・育成も計画に加え、議論していく必要がある。

②漁業者の所得向上

- ・加工場の設備投資に対する支援も必要である。

③水産加工流通販売の推進

- ・シラスの給食センターへの納入は、県漁協手結支所が行っているシイラとは違い、それぞれの加工業で加工方法(味付け等)が違うため調整が必要。
- ・給食センターへ、シラスを納入する場合、地産地消推進協議会を通してなど、納入の仕方についての整理が必要。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 商業部会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎福井 律	お菓子と雑貨おひさん	出
2	田中 たい子	スタジオハンズ	出
3	近藤 洋好	旅館 かとり	欠
4	門田 直也	有限会社マルオカ	出
5	○石丸 法正	香南市商工会	出
6	橋本 香織	香南市観光協会	出
7	安藤 潮	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	小林 辰徳	商工水産課	出
3	谷口 奈菜子	商工水産課	出

1. 平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

商工業分野の指針として設定している、製造品出荷額の実績値が 371 億円 (H28 年) と目標値である 500 億円に対し、達成率 74.2% だったため、全体の評価を B とした。

空き店舗問題や、事業継承者不足による廃業者の増加が原因の一つとして考えられるため、29 年度中に商工会内「事業継承、空き店舗対応の調査研究にかかる委員会」主導のもと、赤岡地区を先行して空き店舗情報を収集したが、住居兼店舗として廃業後も人が住んでいたり、浸水区域のため需要がないなどの問題があり、想定以上に創業希望者に提供できる物件が集まらなかった。

【主な意見】

「市内のお店を知ってもらうためのきっかけづくり」のため、香南バル(仮称)開催のための実行委員会が立ち上がるなど、商業地を盛り上げるための企画が順調に進む一方、商工会主導で行っている「空き店舗活用のための創業支援活動」の中で創業に繋がらない要因の1つになっているのが、人気商業基盤地である野市町の土地価格が、一部高知市内を上回っていることがあげられる。

平成 30 年度は土地価格が高くても、香南市に起業したいと思えるだけのサポート力を高め、広く発信する必要がある。

【香南市地価ランキング 全15件】			【高知市地価ランキング 全118件】		
順位	住所	地価(㎡)	順位	住所	地価(㎡)
1位	野市町西野字カノ丸2059番1外	80,400円	1位	帯屋町1-9-7	256,000円
2位	野市町西野字ヌノ丸553番16	73,200円	2位	本町1-2-7	252,000円
				⋮	
			69位	神田字西ノ川原446番31	79,200円
			70位	大津字西溝無乙1024番3	77,500円
			71位	北竹島町字南汐田中ノ丸103番54	77,000円

2. 平成 30 年度の方向性について

- ・市内で創業を検討している人を地域でサポートする体制を築くため、年度内に事業者および市民を対象としたワークショップを開催・情報収集を行い、H31 年度中のチャレンジショップ整備を目指す。
- ・製造品出荷額増を目指し、製品 PR や消費者の反応を知るために、市外商業施設内で生産者による店頭販売を行う(年 2 回)。

【主な意見】

① 魅力のある商業地・商店街づくり

- ・バルの開催はある程度期間をしぼり、昼間だけ営業している店の救済措置の検討を行う。
- ・イベントをやるためにバルをするのではなく、バルをきっかけに店を知ってもらうという明確な目標のもと企画を行う。
- ・お店で撮った写真をお店の名前と場所と料理を Facebook にアップしてくれたら一品プレゼントなど、SNS との連携をとり、広く情報発信を行いながら、店側と客側双方の利益になる工夫を検討する。
- ・部会内だけでなく、魅力のある商業地づくりのため、市外スーパーや量販店で商業者自らが製品(香南市の加工・成果物等)の PR する店頭販売を行うことで、実際に商品を使う消費者の生の声を取り入れ、よりよい製品の生産に取り組むためのサポートを検討する。

② 空き店舗等の活用

- ・街中に空き家も多く見られるが、その持ち主などになかなか行き着かない。商業集積地だけでも空き店舗がどれだけあるかの把握と、情報収集手段を見直す。
- ・地域支援課と連携を取り、空き店舗を探しながら住居も探している人の支援を手厚くする検討を行う。
- ・貸してもいいかなと考えている段階の、潜在的な貸し手に呼びかけるための情報発信を行う。
- ・創業希望者が安心して、長く事業ができるよう、地域で説明会を兼ねたワークショップを開催し、地域の受け入れ態勢を整える。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 工業会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎黒原 正仁	YAMAKIN株式会社 ジュニアチーフ	出
2	○澤田 保男	香南市商工会 工業部会長	出
3	野島 和男	株式会社暁産業 代表取締役	出
4	川久保 武志	カワクボFACTORY株式会社 代表取締役社長	欠
5	安達 明史	四国職業能力開発大学付属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	欠
6	小松 裕明	高知県産業振興センター 経営支援部経営支援課 部長	出
7	岩崎 孝一郎	香南市商工会 経営指導員	出
8	安藤 潮	高知県計画推進課 地域支援企画員	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	欠
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	萩野 大輔	商工水産課	出
4	小林 辰徳	商工水産課	欠

1.平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

平成 29 年度の取組実績について確認を行い、目標値となる製造品出荷額等 500 億円に対して実績値が 371 億円となったことから、全体の評価をBと判定した。

目標を達成できなかった主な要因としては、平成 29 年工業統計(平成 28 年 1 月～12 月の実績)の結果から推測すると電子部品の製造品出荷額等が大きく減少しており、自動車向けマイコン等の半導体製造を行っているルネサス高知工場の出荷減少が一つの要因として考えられる。

<香南市の製造品出荷額等>						<高知県 電子部品の製造品出荷額等> (従業者4人以上の事業所)					
製造品出荷額等(万円)						製造品出荷額等(万円)					
H27	H28	構成比 (%)	対前年		増加 寄与度 (%)	H27	H28	構成比 (%)	対前年		増加 寄与度 (%)
			増減数 (実数)	増減率 (%)					増減数 (実数)	増減率 (%)	
3,961,427	3,711,450	6.5	△249,977	△6.3	△0.4	2,788,247	2,360,455	4.2	△427,792	△15.3	△0.8

戦略の柱となる「ものづくりの基盤整備」については、香南工業団地への企業誘致が円滑に進んだことで残り1区画(A区画)の分譲の目途が立つ等、目標値を達成出来たものもあったが、ルネサス高知工場

は事業承継先の確保がされておらず、依然厳しい状況となっている。

また、もう一つの戦略の柱である「ものづくり」については、「香南市ものづくり会」の未開催や支援事業の利用実績が少ない等、目標値に達していない取り組みが多く、課題を残すこととなった。

【主な意見】

① 香我美町立地企業交流会について

・参加企業が少なければ地域(香我美町)を限定せず拡充して市内全域の企業を対象に開催してもよいのではないかと。市内企業間交流の活性化にも繋がるので是非検討を。

② 香南工業団地企業立地促進事業について

・香南工業団地への新立地企業である、みすまる加工(株)の従業員については地域の雇用を予定しているとの事から高知県、香南市共に雇用のバックアップを。

③ ルネサス高知工場及び川谷刈谷工場用地について

・ルネサス高知工場閉鎖後の工業用水の在り方については、工場閉鎖後も他企業が一部使用していることから使用がゼロになるわけではないが、管理者である高知県とも連携して適切な維持管理と有効活用を。

・川谷刈谷工場用地については公募の対象が製造業であること、土地の一括購入等、様々な条件があるので長期的な誘致も懸念されるが、引き続き分譲先の確保に繋がるように高知県へのバックアップを。

④ インターンシップ支援事業について

・他分野とも連携しながら事業の見直しを。

⑤ 未来人材育成奨学金返還助成事業について

・香南市内への企業に就職することで製造品出荷額等の増加に繋がることを念頭に置き、市内在住の要件を外す、助成を段階的に行う等、事業利用拡大に繋がる見直しを。

2. 平成 30 年度の方向性について

目標値となる製造品出荷額等については、平成 30 年 5 月末に閉鎖されるルネサス高知工場の製造品出荷額等が大きく影響し、減少が予想されるが、工業統計による数値の反映は平成 32 年度以降となるため、ルネサス高知工場閉鎖の影響を考慮した目標値の修正は現時点では困難であり、平成 30 年度は既存企業の育成支援及びルネサス高知工場の事業承継先確保、川谷刈谷工場用地への企業誘致に取り組むことで引き続き製造品出荷額等 500 億円以上を目指すこととする。

また、具体的な取組として「香南市産業人材育成事業」については要綱を一部改正し、民間の人材育成研修機関で行われる研修の受講についても補助対象とすることで事業の拡充を図ることとした。

なお、その他の取組についても平成 29 年度の取組に対する評価をもとに事業の見直しや拡充を図り、数値目標の達成を目指す。

平成 30 年度 第1回香南市産業振興計画 観光部会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎岡林 順子	創造広場「アクトランド」	出
2	○村上 由利香	香南市観光協会	出
3	吉村 和久	高知県のいち動物公園協会	出
4	長山 哲雄	高知工科大学	出
5	大石 祥子	香南市商工会	出
6	塩井 政利	香南市歌舞伎でまちおこし実行委員会	出
7	安藤 潮 (齊藤 弓子氏の代 理として出席)	高知県計画推進課	出
8	中ノ内 友晶	土佐くろしお鉄道株式会社	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出
4	山下 剛	商工水産課	出

1. 平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

平成 29 年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数 120 万人以上に対し、実績値が 107.7 万人であったことから、全体の評価を B とした。

各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、平成 28 年度の観光施設入込客数 104.7 万人と比較すると「志国高知 幕末維新博」などの効果もあり、平成 29 年度は前年比 103%であった。

①核となる観光拠点の形成

- ・manamana は何をしているのかがわかりづらい。市民はもとより、観光客にもっと情報発信を行い、知名度を上げていく必要がある。知名度が上がることによって、販路拡大にもつながっていくのではないかな。

②広域観光の推進

- ・カタログ販売については、ふるさと納税の販売額が大部分を占めているが、地場促の販売額をどうやって伸ばしていくのか模索していかなければならない。
- ・幕末維新博終了後の集客数維持のために、どういったことに取り組んでいくのか考えなければならぬ。

2. 平成 30 年度の方向性について

戦略の柱の「核となる観光拠点の形成」で取り組んでいる「三宝山観光拠点化事業」や「ヤ・シィパーク周辺地域の活性化」は、ともに関係機関等と連携を図りながら、事業を進めていく。特に、ヤ・シィパーク周辺地域の活性化については、HP や SNS 等による情報発信の強化やイベント出店等外販を強化することでブランディングと売上高増を図ることとしている。

また、ポスト幕末維新博を見据え、地理的な強みを生かした体験等の磨き上げを行っていくとともに、周辺事業者等との連携を図り、ヤ・シィパークを核とした観光拠点整備を推進する。

「まちの案内人会」の人材の育成に関しては、継続した勉強会や外部研修を実施することや、様々な関係機関等とパイプをつくり活躍の場を増やすことで会員のスキルアップを図り、案内可能人数を増やしていく。

「国際観光の推進」に関しては、外国人目線で市内観光施設等の興味を引くポイントなどの調査を留学生や ALT に依頼し実施することで、さらなる外国人観光客の受入体制強化へとつなげていく。また、歌舞伎を活用した着付け体験など新たな体験メニュー開発に取り組む。

4つの「戦略の柱」だけでなく、観光を軸にした各分野との連携を視野に入れ、特にスポーツと観光（スポーツツーリズム）の連携に向けて、第一段階として関係機関等との情報共有を行う。

上記の取組を実施することで、入込客数の上乗せを図り数値目標の達成を目指す。

平成 30 年度の取組について出された意見等は下記のとおり。

【主な意見】

①核となる観光拠点の形成

- ・ヤ・シィパークは、ごめん・なはり線やレンタサイクルなどの 2 次交通と、周辺にある可動橋や YASU 海の駅クラブ等を絡めた仕掛けが必要ではないか。
- ・ウッドデッキなど SNS 映えしそうなところは、もっと情報発信をしていかなければもったいない。

② 広域観光の推進

- ・体験型観光は、他市町村と差別化できる切り口での PR 方法を検討する必要がある。
- ・YASU 海の駅クラブは予約客だけでなく、飛び込み客も受入られる体制ができればいいのではないか。
- ・大型デジタルサイネージの設置など、情報発信の方法を変えていく必要があるのではないか。
- ・ごめん・なはり線を活用した観光周遊や工科大生等学生のアイデアを取り入れてはどうか。

③ 国際観光の推進

- ・高知新港出店時にレンタサイクルを行い、香南市内まで来てもらってはどうか。
- ・市内全域で外国人観光客受入体制の強化が必要。
- ・外国人観光客の対応方法としてスマートフォンアプリなどを活用してはどうか。
- ・体験型観光は、外国人観光客にも興味を持ってもらえる。
- ・クルーズ船だけでなく、空港利用者もターゲットにしたほうがいいのではないか。

平成 30 年度 香南市産業振興計画 サイクリング専門委員会報告書

(H29 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎山地 善久	香南サイクル	欠
2	○榮枝 俊一	香南市サイクリングターミナル	出
3	池田 敏夫	株式会社 技研製作所	欠
4	山根 大輔	高知シクロクロス事務局	出
5	内村 幸子	創造広場 アクトランド	欠
6	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
7	齊藤 弓子	高知県計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 靖生	商工水産課	出
2	田淵 浩平	商工水産課	出
3	齊藤 光明	商工水産課	出
4	萩野 大輔	商工水産課	出
5	小林 辰徳	商工水産課	出

1.平成 29 年度の取組に対する評価 【総評】

平成 29 年度の取組実績について確認を行い、取組経過はおおむね計画どおり進捗していると評価。ブルーライン及び標識の整備等については、予定されていたスケジュールに変更が生じている旨を説明。当委員会としてどのように携わり進めて行くかについても議論が行われた。

【主な意見】

① ブルーラインの取組の変更点について

→ 国と県との整備予定が平成 30 年度中から平成 31 年度までの間へと変更された。

② レンタサイクルの利用状況について

→H28 年度 1,635 人、H29 年度は 2,060 人となっており、前年比 125%となっている。のいち駅のレンタサイクル利用者の傾向として外国人の方が増えており、土佐市の青龍寺まで利用された実績もある。ただ、貸出期限までに返さない等の事例もあり、課題もある。

③ サイクリングを行う方々の目的や取り組み方はどのようなものなのか。

→ 距離を走ること、知らない土地を走ること、山の頂上を目指す方など目的は様々。多いのは四国一周など、ある程度の距離を走る傾向などがある。

④ 公共交通機関(香南市営バスやごめん・なはり線等)に自転車を乗せることはできないのか。

→ 香南市営バスは昨年 10 月にダイヤ改正も行い、サイクリングターミナル前にバス停が構えられており、アクセス面では改善が図られた。しかし、市営バスは基本的に市民の方を対象とした交通手段で有り、自転車を乗せるところに重点を置いていない。また、後ろに自転車を引っかけるバンドなどを設置できるか耐久性の部分について問題があると思われる。また、貨物としてお金を取って自転車を乗せることについては運輸局に確認を行わないと行けない。

ごめん・なはり線の取組については輪行バックの貸出を行っているが、貸出先はごめん駅、のいち駅、安芸駅となっており、使い勝手をよくすることで更なる推進に繋がると感じている。土佐くろしお鉄道の方に提案を行っていくとよい。

⑤ 長距離のサイクリングをされている方が求めている施設とはどのようなモノか。

→ 飲食店やコンビニでもサイクルスタンドが店前にあるだけで、吸い寄せられる傾向にある。

また、高知県は室戸方面からくると自転車屋さんなども少なく、パンクした際などのゴムチューブの購入先も限られていることが課題。サイクリストはある程度ゴムチューブ等修理用品を持っているが、その補充先があると非常に魅力的。加えて、自転車屋さんがどこにあるかなどのマップなど見える化されているとわかりやすい。

2.平成 30 年度の方向性について

本年度より採用となった地域おこし協力隊との連携を図り、ブルーラインを引く候補先の整理や年内のイベントを通しての普及活動、タンデム走行の解禁に伴う取組の調整等に加え、サイクルスタンドの設置やハード整備に対する補助金の制定等を検討していく。

【主な意見】

①自転車健康増進のツールとして捉え、健康ポイント等を活用し、普及を図る

- ・前年度の検討取組の中にある項目から、出来るもの考えた結果、今年度開催する。

②外国人サイクリストの情報源はインターネットを中心に情報発信をしていく

- ・香南市の地域おこし協力隊が連携し、情報を持ち寄りSNSを発信していく準備をしている。
- ・サイクリングの情報も合わせて発信していき、香南市として、自転車と観光を相互に連携させ、良い影響を与え合うことを期待している。

③サイクルオアシスについて

- ・韓国ではサイクルオアシスにコンプレッサーが常備されており、トイレ前にはストレッチ台がある。
- ・サイクリングロードであるとともに、国の道路なので整備がしやすい。
- ・高知のサイクルオアシスでもコンプレッサーまでは必要ないと思うが、タイヤチューブの取扱いや、破棄が出来る場所があれば自転車を利用しやすい。

④香南市の進める事業の対象者について

- ・自転車の初心者ターゲットとするのか、上級者をターゲットとするのかで事業の内容が変わってくる。
- ・高知県では、高知市以外の自転車店が少なすぎて、体制が取れていない。香南市内でも香我美町や夜須町には自転車店がない。
- ・香南市として、初心者から 100 km までのサイクリストをターゲットとし、サイクルオアシス等で修理ができるような環境があると安心できる。
- ・他県では、「自転車の救急箱」というものがある所があり、チューブの取扱いもしていた。
- ・高知県を自転車で走った時に、施設・設備がないので大変だった経験がある。

⑤施設の整備について

- ・香南市でサイクリングターミナルを見たとき、それと分からなかった。
- ・一目見て分かるような案内等があればよいと感じた。
- ・香南市で自転車のことを考えると、サイクリングターミナルが基盤となると思うので、サイクリストへの対応等を十分なものに出来れば、利用者は増えてくるのではないかと。
- ・レンタサイクルをはじめ、一般ツーリストに対するサービス、修理を含めてやっていければいい。
- ・いきなり全てというのは大変なので、まずはチューブを販売したらサイクリストとしては安心できる

のではないか。

⑥自転車利用の周知

- ・5月12日のイベントで自転車で走っているのを見て、自転車を推進している姿が見えた。
- ・自転車に乗っている姿が人の目に付く事は大事だと思う。
- ・香南市役所などで自転車クラブを作って日常的に走る姿を見せる事もいいのではないか。
- ・統一したユニホームなどで取り組んでいただくと、市として一体で取り組んでいることが伝わるのではないか。

⑦ブルーラインについて

- ・国、県と規格が同じものを作らないと自転車に乗っている人が困惑するので、協議の上進める必要がある。
- ・サイクリングコースを6コース作ったのでラインを引けるといいと思う。
- ・香南市に来るといより香南市を通るというイメージが強い。国道を通るだけでなく、市道や町の中も走ってほしい。
- ・ブルーラインは、車に対する注意喚起とともに、利用者が地図を見なくても走れる事にメリットがある。地図を見ていて、トラックと接触しそうになった事もあったので、喚起に繋げたい。
- ・愛媛県はすでにラインが引かれているので、高知県とラインが繋がれば面白い。